

山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司

新聞で見る除夜会、大節分会



← 毎日新聞 (除夜会)



吉井の仁叟寺「大節分会」
 無病息災を願う豆まき

吉井町の仁叟寺で三の年男らに「投げて」日、文殊菩薩様口を兼ね「ごっちょよ」と声をかけた恒例の節分会が行われ、縁起ものの福豆や福餅、境内は約一千人の参り客で賑わった。温かい甘酒やお茶が無料で振る舞われ、今年四時まで三回にわたって「豆まきで厄落として行われ、参拝客らは嬉しうりました」と話していた。

↑ 毎日新聞 (大節分会)



→ 上毛新聞 (除夜会)



→ 上毛新聞 (大節分会)



- 平成17年
仁叟寺年間行事予定
- 1/1 年頭祈禱
 - 1/3~1/4 年始挨拶
 - 2/3 大節分会
 - 2/15 涅槃会
 - 3/13 般若会/大施食会法要
 - 3月中旬 筆供養法要
 - 3/18~3/24 春季彼岸会
 - 4/8 花祭り
 - 7/13~7/16 京浜地区盂蘭盆会
 - 7月下旬 子供禪の集い
 - 8/13~8/16 盂蘭盆会
 - 9/20~9/26 秋季彼岸会
 - 12/8 成道会
 - 12/31 除夜会
- 毎週土・日曜日 書道教室
 毎週水曜日 定期坐禅会
 隔週水曜日 華道教室・梅花講稽古

→ 産経新聞 (大節分会)



寺史編纂室通信-12-

去る2月15日（涅槃会、お釈迦様の命日）に仁叟寺史編纂会議を行いました。会議ではこれまでの経過や仁叟寺の文化財申請などについて意見交換をし、寺史も今年中の発刊を目処に作製することを再確認いたしました。

寺史の編纂は監修の外園早稲田大学教授のもと委員の皆様を中心に行い、また印刷製本は早稲田大学出版に依頼しました。第一稿の締め切りを4月4日に決め、それまでに原稿を上げることを確認。まだまだ時間と手間がかかるかと思いますが、委員一同いい寺史の作製に向け、精



↑ 寺史編纂委員一同

進精励しておりますので、どうぞご期待下さい。

バナガラ・ウパティッサ老師来寺



↑ 大菩提会より贈られた仏足石の前で

去る1月26日、スリランカの大菩提会の住職であり、蘭華寺住職でもあるバナガラ・ウパティッサ老師が来寺いたしました。老師は当寺住職の法友であり、その縁で当寺境内にある大きな仏足石がスリランカより贈られた経緯もあります。

蘭華寺の創建は平成元年（1989）で、千葉県佐原市にあります。また、大菩提会の日本支部も蘭華寺にあり、日本とスリランカの友好交流はもとより、仏教を通じた福祉活動や教育文化活動などさまざまな活動をしております。

折りしも、昨年末のスマトラ沖大地震でスリランカは甚大な被害を被りました。当寺でも微力ながら大菩提会に義援金を寄進いたしました。

蘭華寺HPは、<http://www.juriaweb.com/lankaji/> です。

花祭りのお知らせ

今年も4月8日に花祭りを行います。お釈迦様は今からおよそ二千五百年前、インドの北方にあるルンビニーの花園で、母親のマヤ夫人が美しい花に手をさしのべられた時にお生まれになりました。その故事にちなみ花祭りと言います。

当寺では花御堂を設置し、誕生仏を安置し、誕生図の掛軸（江戸初期の作）を掛け、供物を供え、梅花講の奉詠を行いお祝いをいたします。来寺された方全てに記念の品も用意してございます。是非ご来寺いただき甘茶を飲み、日本伝統の仏教文



↑ 昨年の花祭り風景

仁叟寺探索-10-

今回の仁叟寺探索では、当寺に遺^{のこ}されている二つの駕籠を紹介いたします。現在は自家用車が普及し駕籠が使われることは観光地や時代劇などを除けばほぼありません。この駕籠はいつれも江戸期の作であるかと推測されます。その当時では貴重な交通手段だったと考えられます。

駕籠は黒色と赤色の二種類あります。黒色は通^{そうぎ}夜葬儀や法要など住職の送迎用として使用されておりました。赤色の方は、同じく住職が奉^{ぶぎょうしよ}行所や代官屋敷などに伺^{かこ}う際など公用で使用されていたそうです。

当寺のように二種類の駕籠が遺^{のこ}されているのは



↑左) 赤色駕籠 右) 黒色駕籠

大変珍しいそうです。本堂西脇の書道教室の上に安置されております。興味のある方は一度ご覧下さい。

ごだいざんけんつうじゅうこうじいんかんけいていけつじゅうしゅうねん 五台山顕通寺友好寺院関係締結十周年



↑ごだいざんだいけんつうじ
五台山顕通寺

今年平成17年は、中国山西省五台山顕通寺と当寺の友好寺院関係締結より十年という節目^{ぶしめ}の年を迎えます。文殊堂に安置^{しやうらい}されている文殊菩薩像様が請^{まね}来されてからこの十年間、日中両国の仏教を柱とする友好文化交流を行って参りました。

この節目の年を迎えるに当り、当寺では中国五台山の参拝旅行を企画、時期は6月下旬ごろを予定しております。中国第一の仏教聖地と呼ばれる五台山に、この機会に是非お参りしてみたいはいかがでしょうか。

費用や日程など詳細は、後日決定いたしましたら皆様方にお知らせいたしますので、宜しくお願い申し上げます。

五台山 中国山西省東北部、五台县にある仏教の名山。五峰のうち最高峰は、標高3,000mもある。頂上が平らな台状であるので、この名が生まれた。『華嚴経』にみえる文殊菩薩の住地清涼山がこの五台山であるとされ、普賢菩薩の靈地である峨眉山、観音菩薩の靈地である普陀山とともに、中国仏教の三大靈山とされた。唐代は五台山仏教の最盛期で、中国仏教の一大中心地となった。清涼国師澄観は、峇山で『華嚴教経疏』をつくり、不空は金閣寺を造営して文殊信仰を広めた。そのため遠くインドや日本の僧が巡礼した。唐代には日本留学僧の円仁らが訪れた。清朝では蒙古族、チベット族の懐柔策によって、ラマ教を重視し、五台山をラマ教の根拠地にした。そのためラマ教の寺も多くみられるようになった。寺院の数は台中百力寺とも言われ、

Page 3 約1,000人を超える僧がいる。



↑仁叟寺文殊菩薩像

平成16年度寄付者一覧 (敬称略)

	さばだい ←生飯台	白石 宮澤二三夫 黒熊 三木利次		
	ふくとくえんまんかんのんぞう →福德圓滿観音像	藤岡 堀越六夫		
	はなみどうつきはくぞう →花御堂付白象	高崎 寺本欣		
	しろみかけいせい ↓白御影石製ベンチ二基	吉井 井上隆		
	しょくだい →燭台一対	安坪 金田一男		
	みょうはち →妙鉢一双	高崎 篠崎君子		
	だいはんによようかけしくさんふぶくさいひょうぐ →大般若用掛軸三幅再表具	神保 神保佳玄		
	きんぱくさんぼう ←金箔三宝一台	神奈川 三浦雄彦		
	じゅうにしえとがわら ↓十二支干支瓦	藤岡 酒井敏博		
	々 掛台	高 落合やす		
	じほかんのんぞう →慈母観音像及び台座	高崎 小菅栄子		
	けいす →鑿子及び鑿子台	東京 向井重郷		
	ほんてうちはっすんけいす ←本手打八寸鑿子	高崎 篠崎儀人		
	とくせいりゅうまきしょくだい →特製龍巻燭台	多胡 井上澄子		
	しゅぬりきんぶちはっすんだい ←朱塗金縁八寸台	神保 金澤信次		
	せいどうせいよつあしこうろ →青銅製四足香炉	高崎 矢嶋恵子		
	じもんいりまきえけんたい ←寺紋入蒔絵見台	矢田 小林寛		
	もくらんげさ →木欄袈裟	矢田 齋藤キヨ		
	寺史編纂事業	塩 向井睦		
	寺史編纂事業	塩 向井敏昭		
	→龍柱	高崎 寺本欣一		
		横浜 清水萬平		
		吉井 酒井信夫		
	ドウダンツツジ、サルスベリ	神保 柿田和良		
	→白御影石製燈籠、金欄座蒲団、ドウダンツツジ二株	塩 橋爪輝子		

行雲流水 (編集後記)

編集人 副住職 渡辺龍道

文中にもありますように、いよいよ寺史編纂事業が大詰めを迎えて参りました。本年中の発刊を目指し委員一同、精進をする次第です。宜しくご協力、そしてご期待のほど。